

「宮城県を元気にする高知応援隊」に参加して

(株)第一コンサルタンツ 調査二課 柴田 昭英

1. 決意

突然この話が来た。社長がフロアーに来て「宮城に行って、炊き出しして、ボランティア活動をしなさい、泊まる場所もあるらしい」私を含め数名は「行く」と返事した。具体的には何も決まっていない。炊き出しなど自信がない。3月11日の地震以来、何か役に立ちたいと思っていた私は、「ボランティア活動ならできるぞ。安全靴はいて、革手袋はめて、泥かきして」それだけで参加を決めた。

2. 宮城へ 6月16日～6月17日

被災地に送る2台の車を搬送するため、本隊より一日早く出発する。社員の見送るなか高知を午前11時に出た。何度もSAで休憩をとりながら車を進める。北陸ルート敦賀手前で日没、「柏崎にも原発がある。見えるかえ？」などと会話しながら夜間走行する。



寄贈する乗用車

新潟～会津～郡山を経て、仙台に到着したのは翌朝7時頃。全員頭がふらふらしている。交代で睡眠をとりながらなどという甘い考えは通用しなかった。まずは予定していたお風呂へ。8時、開店と同時に入浴。それでも頭はすっきりしない。

13時すぎ、本隊と合流のため仙台駅前へ。バスは到着していた。しばらくすると駅の方が

らぞろぞろと本隊が歩いてくる。「お疲れさま」と声を掛け合いながら、我々は今度はバスへ。乗ってきた2台は別の隊員に引き渡す。



仙台駅前 本隊と合流

3. バス視察

バスでの視察は多賀城市役所前を通過し、仙台港へ。倉庫施設やLPGタンクの被災した状



仙台港付近



七ヶ浜-1

況が目に入る。七ヶ浜では下車して視察。建物の基礎だけ残し、上屋はどこに行ったのか全く見あたらない。砂浜にはコンテナが埋もれている。仙台港より引き波で沖に出て再度打ち寄せられた物だろう。塩釜市内を抜け、今日から2泊お世話になる松島町野外活動センターへ。



七ヶ浜-2



七ヶ浜-3

4. 気仙沼へ 6月18日



南三陸町

今日は南三陸町と気仙沼のA、Bふたつの班に分かれて炊き出しを行う。私は気仙沼のB班

に参加する。朝7時、全員青い「土佐人魂」のTシャツを着込みバスに乗り込む。バスは南三陸町志津川高校でA班と別れ気仙沼に向かうも、国道45号は一部不通のまま。また、気仙沼市街に近づくにつれ渋滞となる。

予定より一時間遅れの11時頃到着。幸いトラックを横付けできる広いスペースを使わせてもらえるとのことで、前夜の打合せに沿ってテント、設備等を設営し調理に取りかかる。メニューは土佐あかうしカレー、ナスのたたき、鶏ももから揚げ、高知県産新鮮野菜のスープで他にトマトやリープルも提供する。12時半炊き出し開始の号令。あまり時間がない。隊員は全員勢いでやっている。



気仙沼高校にて



炊き出し

炊き出しが始まった。高校生が多かったためか、カレー、から揚げが人気。トマトも大好評。初めて見るリープルは「なにそれ」と抵抗があったが、「高知名物」「カルシウムたっぷり」「飲んでおいしい」とわかると次々と取りに来た。

メッセージボードにはたくさんのメッセージをいただいた。避難所の間仕切りの間に並んで、一緒によさこい鳴子踊りをした。恥ずかしながら私もはじめて踊った。みんな笑顔で喜んでもらっていると感じられた。小学生のなかよしグループが鳴子を手に帰りのバスを見送ってくれた。来て良かった。滞在時間が少なかったのが残念。



メッセージをいただく



鳴子踊り体験



気仙沼とお別れ

5. 多賀城市でボランティア活動 6月19日

この日は、多賀城市でボランティア活動をする。朝9時に市役所前に設置された災害ボランティアセンターに集合。受付では住所、氏名、連絡先を記入するだけ。ボランティア活動保険は事前に手配してもらっていたので必要なかったが、当日でもすぐ加入できるようだ。県内、県外と窓口が分かれていて県外からの参加が多い。派遣先の割り振りは並べられた椅子に座った順に要請人数で区切られる。グループで参加しても別の箇所になる場合もある。個人宅の写真撮影は禁止、作業は15時に終わるように、床下に潜っての作業は断るように、傷の洗浄用にペットボトルの水を携帯するように、などの注意事項の説明。熱中症対策の飴も配っていた。運営するセンターとしては最も気を遣うところだろう。

「大代町地区の公民館の清掃で20人」個人宅でなく公共施設の作業に選ばれた。作業分担やセンターとの連絡係としてリーダーが決められ、手袋、マスク、作業靴などの装備を確認、具体的な作業内容は施設の人に指示を受けるようにとのこと。清掃道具はセンターが準備していた。自分の荷物をセンターに預け派遣車両に乗り込む。大代地区は市役所から東へ約2.5kmのところにある住宅地で、5分ほどで到着。この周辺は、家屋の全損は少ない様だが、床上以上津波が来ていたようだ。いたるところで土のう袋やゴミ袋が道路脇に積み上げられていた。それがかえって生活感があるように感じられる。

作業の内容は公民館に附属する体育館で、流出物を所有者に探しに来てもらうための会場清掃である。壁面には床上1mほどのところに津波の痕跡がある。20台ほどのテーブルに、アルバム写真、ハガキの他、仏壇も泥砂が着いたまま置いてあった。自衛隊が瓦礫処理の際、取り分けて回収した物とのこと。所有者にとっては大切な財産ばかりだろう。自衛隊も心やさ

しい人である。ちゃんと取り分けてくれている。娘を思う母親の気持ちが添え書きされた入学式の写真を見たときはどうかご家族無事であってほしいと祈った。



作業が始まった。震災でゆがんだ床の傾斜の高い方からホースで水をまき、ブラシで泥をこすり落としながら床ワイパーで低い方へ押し流す。大人数で作業が早い。10分ほど休憩を挟みテーブルをきれいに配置する。演壇の雑巾がけをして作業終了。午前中に終わった。

一度センターへ帰る。途中、コンビニに寄っておにぎり3個とお茶を購入。センターの前の花壇に座って昼食を取っていると、別のところに派遣されていた仲間が帰ってきた。焼き肉屋さんの泥かきをしてきたとのこと。

6. 多賀城市でボランティア活動 その2

「今から行けませんか」また声が掛かる。ある場所で増員の要請があったらしい。宮内地区というところで個人宅の片付けの応援とのこと。

宮内地区は市役所から南へ約1.5kmのところにあった。工場などの施設が多い。あとで地図を確認すると、一日目にバスで視察した仙台港にも近い。現地へ向かう途中に見た火事で焼け崩れた鉄骨造の建物が印象に残る。道路は走行に支障のないようきれいになっている。大きな瓦礫も取り除かれ散乱している様子はない。このあたりで津波の高さ3mぐらいか？住宅の二階部分の損傷は少ない。しかし、震災から101日目、全く手つかずの建物が目につく。朝から作業しているグループと合流し総勢

20名余りとなる。ロンドンから来たという男性もいた。所有者がみえられて挨拶をする。リーダーからの説明があった。「片付けは一階のみ、二階は手を付けない」「ゴミ、泥、ガラス類は分けて回収し道路脇に出す」「写真や貴重品などが出てきたらここに置く」など。この家の片付けは2日目で、大きな家具類はすでに運び出されている。この建物は取り壊す予定なのできれいに拭き掃除までする必要はないとのこと。

作業分担が決まり台所を担当することになる。床に10cmほど積もった泥の中に大事な物が埋まっていないか確認し土のう袋へ詰める。印鑑が出てきた。室内が終わって建物の外回りへ作業が移る。通帳、指輪などを回収。このような作業は人の手でないとできない。

作業が終了しセンターへ帰る。今日のような片付けを必要とする家はたくさんある。隣の家も手つかずだった。人手が必要、ボランティアが必要、まだまだこれからだと思う。また参加したいが高知からでは遠すぎる。

多賀城駅から電車で宿泊地の仙台市内へ移動。駅からホテルまで1kmほどあっただろうか。重いカバンを肩にかけて歩いたのがこの日一番の重労働だった。



7. 日本三景松島へ 6月20日

最終日となり、午後の新幹線までの時間を利用し、日本三景松島へ。重いカバンは自宅へ宅配し、仙台駅から松島海岸駅までJR仙石線で40分。仙台を離れるにつれ乗客も少なくなり



松島湾 遊覧船より



土産物店が並ぶ沿道の様子



遊覧船乗り場

シートに座れた。松島海岸駅に隣接した観光案内所で遊覧船のチケットを買う。「国土地理院の観測結果では地震でこの辺りの地殻が3mほど海側へ移動したはず。今歩いている歩道はその車道のところにあった」などと話しながら船着き場へ歩く。10時出航まで時間があるので、道路向いの国宝「瑞巖寺」へ。ここも地震で漆喰壁が壊れたとかで修復中。シートが掛かってなにも見えない。数ある土産物店も津波で浸水したのか改修中が多い。

遊覧船から見る景色は震災を感じさせない。名勝の船内アナウンスも何年も前に録音したものだろう。震災など無かったかのように淡々と放送する。カキ養殖の杭も当たり前の様に海面から突きだしている。ただ、土のうを積んだ船とすれ違っただけだった。

午後は仙台駅に戻り、新幹線で東京へ、電車、モノレールを乗り継ぎ、羽田空港より高知へ着いたのが夜の8時過ぎ。

8. 高知に帰って考えること

ボランティアに参加したのは初めてであった。誤解しているかもしれないが、多賀城市ボランティア活動センターは上手く機能していた。県内外から一般ボランティアを大勢受け入れ、手際よく派遣していく。震災直後の状況はわからないが、職員の対応が良い。安全管理、器材も揃っていた。我が高知県はどうだろう。南海地震がくる。被害が全くないなんてことはあり得ない。災害のあと交通アクセスが回復すれば、志ある者が大勢やってくる。受け入れる体制がしっかりできるのか。県外から日帰り・休日ボランティアがこれら地理ではないではないか。中村や土佐清水はもっと遠いではないか。それ以前に、すぐに交通網が回復できるのか。いろいろ考えると心配になる。

9. 最後に

今回の活動では、松島町で交流させていただいた地元の方々、気仙沼市、南三陸町、多賀城市ボランティア活動センターの皆様には大変お世話になりました。勉強させていただきました。厚く御礼申し上げますと共に、一日も早く復興し平穏な生活に戻られることをお祈り申し上げます。

最後になりましたが、「宮城県を応援する高知応援隊」の宮地貴嗣隊長、高野光二郎事務局長をはじめ役員及び隊員の皆様には大変お世話になりました。

2011年6月27日